

「赤徳小学校の島唄伝承活動の取組」

1 学校名

龍郷町立赤徳小学校

2 学年・人数

3年生から4年生(計40人)

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年12月14日 赤徳小学校3年教室

令和6年2月10日 赤徳小学校3年教室

(2) 発表の日時・場所

令和5年12月14日 赤徳小学校3年教室

令和6年2月10日 赤徳小学校3年教室

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

島唄・三味線・島口

(2) 由来

島唄の「シマ」とは、奄美の言葉(シマグチ)では集落のことをさし、シマウタとは「シマのウタ」、つまり自分の集落で歌われている歌のことだ。奄美群島にはシマごとの特徴を残している歌もある。作曲者も作詞者もおらず歌詞やメロディーを書くことを前提とせず、耳で聞き、口で歌われることで受け継がれてきたものだ。

(3) 構成等

「仕事歌」「行事歌」「遊び歌」の3種類に区別できる。仕事歌とは、田植えや舟漕ぎのような仕事のときに歌われていた歌で、今ではあまり歌われていない。行事歌は島の年中行事のときの歌で、現在残っている代表的な歌は八月踊り歌だ。遊び歌は仕事や行事とは関係なく、遊びのために三味線の伴奏で歌われた歌だ。これらの歌のうち、「奄美島唄」と通称されるものは奄美群島北部の歌のことである。南部の歌は各島の名前をつけて「沖永良部民謡」「与論民謡」と呼ばれている。

5 保存会や地域との連携の具体

本校では、総合的な学習の時間において、地域の伝統・文化・自然を探究的に学ぶ活動を位置付けている。本校では毎年、地域の方を講師として招聘し、島唄や島口、伝統的な踊りや楽器について教えてもらっている。校区に住む、島唄保存会の方とつながりがあり、毎年来ていただき、島唄の歌唱指導を行ってもらっている。講師の方も、伝統を子供たちに受け継いでいきたいという思いがあり、積極的に楽しく参加していただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校は小中併設校であり、中学校では実際に三味線を弾いて歌っている。小学校3、4年で得た、知識としての島唄の歴史や、体験的に歌いながら身に付けた島唄に親し

む態度は、小中つらなって学ぶ「地域を愛し、愛される児童生徒」の育成につながっている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



歌詞の意味を教えてもらう



歌ったり踊ったりしている児童



楽器に親しむ児童



島の文化や言葉について

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【3年生児童】

- ・ 島口について総合の時間に習ったことを使えてうれしかった。最初「島育ち」の歌詞の意味が難しかったけれど、慣れてきて上手に歌えました。
- ・ 島口についてわからなかったところを教えてもらえて楽しかった。

【4年生児童】

- ・ 島唄や島の伝統工芸品、文化をわたしたちが大事にして受け継いでいきたい。
- ・ 3年生で学んだときよりも、歌い方が上手になり、更に島唄が好きになりました。

【講師】

- ・ 楽しく歌い踊る子供たちから元気もらいました。島のことに興味をもってくることが何より嬉しいです。